

新任薬剤師研修会に参加して

水戸医療センター 薬剤部 小島 千佳

出身大学：東邦大学（平成29年）

興味のあること：NST、感染

水戸医療センターに配属されました小島千佳と申します。出身は茨城県牛久市、座右の銘は「思い立ったが吉日」です。どうぞよろしく願いいたします。

7月1日に東京医療センターで開催された新任薬剤師研修会に参加させていただきました。普段の業務では忙しさにまぎれがちな、しかしとても重要である「医療安全」について考える機会をいただきました。前半の川崎先生の講義ではヒヤリハットなど基本的な用語の確認から始まり、実際にあったニュースを元に何が悪かったか、どのように対応すればよかったかをお話してくださいました。特に印象に残ったのがマキシピームとマスクキュレートを取り違えてしまった例です。自己監査を行い、看護師の手を経由したにも関わらずどうして防ぐことができなかったのか。私自身も夜勤・日直に入るようになり、自己監査で薬を出す機会も増えたので、この事件がとても他人事とは思えませんでした。常に間違えないよう意識はしていますが、どうしても間違えてしまうこともあります。そういったときどう対応をすればよいのか、考える必要があると感じました。私が自己監査する時には、調剤時に規格に丸を付ける、調剤・監査の間をあける、監査時に薬・規格・数量にチェックを入れる、などを対策として行っています。

後半はグループワークでした。紙の輪の数を競うレクリエーションで打ち解けたのち、3人1組で疑義照会のロールプレイングを行いました。医師役・薬剤師役・第三者役をそれぞれ行いましたが、実際に疑義照会するのはとても難しかったです。私はもともと緊張しやすく、病院の疑義照会

でもいつもひどく緊張してしまいます。また、医師が急いでいるようだと、早く終わらせなければ、少なくともこれだけは伝えなければ、と頭が回らなくなってしまい、医師を気遣う余裕がなくなってしまいます。その結果医師役からは「責められているようで怖かった。」という感想を伝えられました。このグループワークで私が学んだことは、相手の焦りにとらわれすぎずきちんと話を聞くこと、そのうえで薬剤師としてどのような提案ができるか考えることが大切だということです。1度目のロールプレイング後、コミュニケーションにおけるスキルを教えてくださいました。自分の疑問をそのままにしない「2回チャレンジルール」、不安を伝える「CUS」、そして提案する「SBAR」です。どれも自分の考えを伝えるという点でとても優れていると感じました。しかし、実際に使用するのは簡単ではありませんでした。特にSBARは自分の中で話の筋道ができていないと人に説明できません。ただ、自分の考えを整理するという点においてもこういった手段は有効であると感じました。

4月に入職して以来、いくつか研修に参加させていただきました。薬剤師の医療安全の研修は初めてだったので、有意義な時間を過ごすことができました。研修の中身はもちろんですが、同期の仲間と顔を合わせ、議論する機会はそう多くはないものなのでとても貴重な体験でした。講義してくださった川崎先生、阿部先生、研修会を開いてくださった関信地区国立病院薬剤師会の皆様、本当にありがとうございました。これからも日々の疑問を大切に、患者さんのために頑張りたいと思います。